第４回美作市庁舎整備検討市民委員会　議事録

１　日時
平成２７年３月２４日（火）午後２時 00 分～午後３時 45 分

２　場所
美作市民センター　２Ｆ大研修室（美作市栄町３５番地）

３　出席の委員の氏名（１５名中１５名（全員）の出席）
（学識経験者）氏原岳人
（市議会代表）鈴木悦子、谷本有造
（公共的団体等の役職員）
有元敏衞、高田義和、春名章良、中嶋義晴、鳥元　均、上田義雄、鳥越重一、
谷口征士、春名　宏、山本　壽、髙坂敏明、小谷一夫

４　欠席の委員の氏名
なし

５　事務局職員等の職及び氏名
市長 萩原誠司、
総務部長 尾崎功三、総務課長 髙尾和弘、管財課長 月見松男、総務課長補佐 山森和幸、建設管理課長補佐 小林英樹

６　会議の要旨
別紙のとおり

７　その他
なし

別紙

○会議の要旨

１　開会

２月中旬を予定していたが、約１か月遅れの開催となったことをお詫びする。

２　会議成立の報告

委員１５名中１５名（全員）の出席により成立していることを報告。

３　委員長あいさつ

時候のあいさつに続き、これまでの経緯などを説明。

事前に今日の資料をお送りしているので、それに基づいて事務局からの説明をいただき、内容について検討していきたい。

４　市長あいさつ

３月定例議会が昨日終了したが、その中で庁舎移転関係について３つの質問をいただいた。

①　選挙のときに勝田方面へという考えを申し上げたが、それはそれとして当委員会で検討していただきたい。

②　当委員会の委員を変更したらどうだという質問もあったが、そうはいかない。委員の方々は若い人や女性の意見も吸い上げ、地域の雰囲気も知ったうえで代表として会議にご出席していただいているということで、ご理解をいただいている。

③　位置の問題はさておき、現代の流れの中で、例えば木造庁舎の必要性が高いのではないかという意見もある。このような庁舎の構造も検討していただきたい。

このような中、だんだんと市民の関心も高まってきている。

また、庁舎ではないが、文化センターやコンサートホール等の建設についての意見もいただいている。このことも頭の隅におきながら執行部としては考えていかなければならない。熱心なご討議をお願いしたい。

５　協議事項

１）資料の説明

鳥越委員長：事務局に対し、資料の説明を指示。

尾崎部長：先日お送りした資料の有無の確認。前回資料では分かりにくい。詳細な資料がほしい等々のご意見を踏まえ、改めて資料を作っている。考え方は変わっていないが係数や基礎となる人数が変わったところがあるため、改めて積算している。前回資料は破棄し、今回の資料でご検討いただきたい。

Ⅰ　移転新築方式の検討

１　庁舎機能の検討

現在の分庁方式となっている本庁部門を一箇所に集約する場合、必要な面積規模の説明。

２　建築面積の検討

庁舎面積を算定する方法として、下記の３つの方法をそれぞれ説明。

（１）総務省地方債査定に係る標準面積によるもの
（２）国土交通省新営一般庁舎面積算定基準によるもの
（３）事例による算出によるもの

これらを参考にしながら、庁舎の建築面積や車庫面積の設定について説明。駐車場は議会や会議が重なる場合の招集人数を想定し100台（2,500㎡）程度としたこと等を説明。職員駐車場はほぼ全ての職員がマイカー通勤であることを考慮した面積にしたことを説明。

３　敷地面積の検討

必要敷地面積を建物、駐車場等から算出した内容を説明。

４　事業単価の設定

近年庁舎建築を行った類似団体の平米単価や東日本大震災の復興需要による建設費高騰も加味した試算単価としていること、また、造成費はH23の消防署建設を参考にしたこと等を説明。

Ⅱ　支所利用の検討

支所を利用して増築する場合を検討。

設定した建築面積や敷地面積を勘案し、市有地でまとまった敷地面積を有する作東総合支所、勝田総合支所を利用して増築した場合を説明。

続いて、

・庁舎新・増築工事等比較検討資料について説明。
・事業費の比較、財源の比較。移転新築、作東総合支所への増築、勝田総合支所への増築、それぞれ想定した内訳について説明。
・財源について、それぞれ想定した内容の説明。

２）検討事項（追加）

鳥越委員長：検討事項（追加）庁舎の構造についての説明を事務局に指示。

尾崎部長：冒頭の市長のあいさつにもあったが、議会においても庁舎問題に関する質問もあり、その中で環境への配慮や美作市の地域の特性を考えたときにコンクリートなどではなく、木造建築により温かみのある庁舎を考えるべきではないかというご意見があった。このようなことから、検討委員会においてその当たりのことも諮りたいということで、今回議題とさせていただいた。

鳥越委員長：庁舎の構造について、美作市の特性である木材を使った構造についても委員会で検討することとしてよろしいか。

よろしいということで、次回にはその部分の資料を作成し事前に提出をお願いする。

３）質疑応答

山本委員：議会からメンバーを変えたらどうかとの意見が出たのはどういうことか。我々は地域の代表として、若い人や女性の意見も聞いて会議に臨んでいる。

萩原市長：私もそのように議会では答弁した。

谷口委員：美作地域でももう少し若い人を入れたらどうかとの意見が出ていた。ちょうど市長が変わるタイミングだったので話せなかったが・・・。

中島委員：私たちは地域審議会、行政事務連絡協議会の役職で決まったが、今は若い人をという声があるので、若い人や女性を追加したらどうか。

上田委員：メンバーを追加すると、一から検討する必要も出てくる。どこの地域でもこの委員会での話は区長へ下ろしている。区長会でも市民のところへ下ろし、また出てきた意見は吸い上げている。

鳥越委員長：ダラダラと長くなってもいけない。我々が地域のことをよく吸い上げ、まとめ、早く委員会としての報告をまとめるようにすべきだと思う。
萩原市長：議会でも話したが、ここでメンバーを変えると意図的に一定の方向に誘導しようとしているようなあらぬ疑いの目で見られかねない。「李下に冠を正さず」という言葉もあり、メンバーを変えたり追加する必要はないと考えている。また、若い人とのネットワークからもそのような不満は聞こえてこない。議会ではメンバーを変える必要はないと明確にお答えした。
鳥越委員長：今は、このメンバーで続けることでよろしいか。
有元委員：この委員会での結論で決まってしまうものではない。若い人の意見が必要なら別の会を設けてもいいのではないか。
萩原市長：そのような考えの方は、無視するわけではないが少数意見だと思う。
山本委員：私たちはメンバーを変えたらどうかとの意見が出たのは意外だった。議会から２名来ていただいているが、どのような民意だったのか。意見を聞きたい。
鈴木委員：言われた議員は個人的な意見としての発言だったのではないか、と思っている。
鳥越委員長：ここでの内容は地元へ帰ったら報告し、また地元で出た意見は委員会へ持ち寄ってここで議論、検討をするということでお願いする。
鳥越委員長：その他、意見や質問等は。
髙田委員：想定した建築面積について４階建てを想定しているとのことだが、木造でできるのか。
萩原市長：木造建築をしっかりやれと林野庁や国交省は言っている。４階建ては大丈夫だが、５階６階建てとなると研究的な価値が生じる。研究指定により設計段階から補助金が出るかもしれない。構造的に無理であれば床材に使うなど、いろいろな視点をもって様々な角度から議論してほしい。
鳥元委員：予算や立地条件などによって変わるだろうが、木造を取り入れることは賛成。
山本委員：いろいろな部署を一つに集約するという方向づけはできたということか。
鳥越委員長：方向付けまではまだできていないと思うが、住民にとっての利便性の面も含め、どのような形にしたらいいのか皆さんの意見を聞いて検討する必要がある。
尾崎部長：市民の方から意見箱等を通じて、要望や意見としていろいろといただいている。その中でも多いのが、福祉部門が本庁と離れていることに対する要望や意見が多い。
上田委員：今後の市の人口動向も入っているのか。
尾崎部長：今回の資料は現時点のものを想定している。実際に建設する場合にはそのあたりの考慮も必要になるかもしれない。人口減少が全国的に問題になる中、美作市も総合戦略とか地域創生など、さまざまな施策により人口25,000人を維持できるように取り組んでいる。この25,000人が維持できるとすれば、今回の想定とさほど変わらないと考える。
氏原委員：約１年ぶりなので、今までの経緯が分かってない部分があり、確認したい。そもそも都市計画や総合計画との関係性は議論されたのか。都市計画や街づくりのためには庁舎は極めて重要。建て替えだけでいいのか。庁舎以外の施設もいずれ老朽化し更新が必要になってくることも考えられる。そういった施設との複合化の議論はどうだったのか。
萩原市長：言いたいことは分かるが、庁舎の老朽化、狭隘性、耐震化不足などを出

発点として言わば窮余の策から議論がスタートしている。その議論が進む中で次第に付け加わっていく。考える順序ということでは、ある意味、逆のパターンだが、これから付け加わっていくと思うので問題はない。
高坂委員：今までの様々な経緯があったため、ここまでしか議論できていないが、これからスタートすればいいのではないか。
鳥越委員長：庁舎についての耐震不足の問題が出てきて、耐震補強か新築移転か支所の利用かを議論し、１２月の会議では耐震補強は無理だとの結論を出し、２つの案に絞った。これから議論を進めていきながら、庁舎の機能や複合化も検討していけばいいのではないか。木造についても、地元の木材を使用することになるし、環境にも配慮されたものになるしということで進めてはどうか。
氏原委員：この前の議論を繰り返すのではなく、視点として、これからの街づくりの視点も必要だと思う。

（１０分休憩）

鳥越委員長：財源について、事務局から詳細な説明を。
尾崎部長：今の段階において仮に想定した条件で算出した数字。今後、先ほどお話した条件が大きく変われば、数字も変わってくるとご承知いただきたい。
春名委員：必要面積 7,000 ㎡と設定したとのことだが、人口 30,000 人と想定した場合の職員数が、今の 290 だと思うが、25,000 人の時の職員数だとどうなるのか。7,000 ㎡より減るのではないか。
尾崎部長：合併後 10 年で 155 人の削減をしている。職員数はある程度は必要なので、若干は減るだろうが、それほど変わりはない。
山本委員：支所機能は現状維持で変わらないか。
萩原市長：支所を無くすことは全く考えていない。議会でも減らせの声はないし、市民の意見でもない。
高坂委員：支所は半永久的に、３０年４０年先でも残すということを確認する。
山本委員：氏原委員に尋ねるが、外から見て美作市はどうか。
氏原委員：市長の話にもあったように、何か特徴的なものにするのがいいと思う。
萩原市長：職員の方々だけでなく、市民の方々、そして来訪される方々のための庁舎にしたい。それから、土地購入をどうするのかは早めに決めてほしい。場所の選定から用地交渉、購入手続きには多くの時間が必要になる。
鳥元委員：市長に同感。コンクリート造、木造は後からでも議論できる。
鳥越委員長：今日明日でどちらにするかを決めるのは難しい。地域へ下ろし、意見を聞いて、この場で検討し早急に結論を出したい。
髙田委員：用途変更や施設解体に伴う補助金返還とは？
尾崎部長：支所周辺の整備で、国の補助金が入っているものがありそう。その時には補助金の返還が求められると思われる。
高坂委員：今の市役所の土地は返還できるのか。
尾崎部長：原則として原状復旧が一般的。後は、契約内容の確認と地権者との協議になるかと思う。
上田委員：支所について、移転新築でも増築でも美作支所は必要か。
尾崎部長：旧美作町地域に本庁が来るのであれば、美作支所は不要。支所利用となれば、その支所が本庁となるので、美作支所が必要。
高坂委員：市役所+市民センターで約１,000 万の借地料だったか。

尾崎部長：市民センターの土地は市有地。市役所部分と裏の駐車場部分は借地。年間で 900 万くらい。
鳥越委員長：次回の会議では構造の資料を用意。それぞれの地域へ返して、意見を吸い上げるようにしたい。

４）次回の会議開催時期について
尾崎部長：できるだけ早い時期に開催したい。４月２７日午後、４月２８日のあたりで。

4　閉会
春名副委員長より、本日議論した内容について要旨をまとめ、再度確認を行った。

5　その他
資料は前もって送付のこと。その際、綴れるように穴をあけておいてほしい。